

佐渡島の概要

平成16年3月1日、島内全市町村（1市7町2村）の合併により、佐渡市が誕生しました。佐渡市の総面積は約855平方キロメートルで、周囲約278キロメートルの海岸線を有しています。日本海の中央に位置し、沖縄本島に次ぐ日本第2の島です（平成16年10月1日現在、総人口69,880人、世帯数25,500世帯）。北に大佐渡山脈、南小佐渡丘陵が縦走し海から隆起したような形をしています。その山は陰しさから生活の場になりえず、2つの山脈の間の平野部と海岸線のみが居住地区となっています。

今回写真等をご提供いただいた神田医師は、佐渡島内の2つの市立病院に勤務しています。

市立相川病院は佐渡の西北に位置する佐渡金山のそばにあり、以前は鉾山病院と呼ばれた病院です。現在、佐渡金山は閉鎖され、観光地になっており、病院も60床の療養型病床を持つ小規模病院になっています。

市立両津病院は新潟市と佐渡市を結ぶ佐渡航路の玄関口となる両津港近くにある病院です。100床の一般病床を持ち、神田医師以外にも数人の医師が勤務しており、その中には神田医師の1年後輩にあたる川村邦雄医師（23期）も勤務しています。

神田医師は、週3日相川病院に勤務し、週2日両津病院に勤務しています。宿舎は相川病院の近くにあり、両津病院に行くときは片道約25kmの道のりを自分で車を運転して往復しています。

相 川

- (風景) 相川病院は海に面した山上にあります。さらに奥に行くと、1 kmくらいで佐渡金山があります。
集落は山と海の間であり非常に狭いです。山が西に面しているためきれいな夕日が見られます。
- (外来) 勤務日には毎日外来をしています。慢性疾患の患者さんがほとんどです。
CT装置程度なら備えてあります。
- (病棟) 病棟にはどちらかというと安定した患者さんが多く、病棟スタッフも基本的に地元の人ばかりです。
- (胃カメラ) 1人で胃カメラも行ないます。
- (特 養) 近くにある特別養護老人ホームの嘱託医も兼務しており、定期的及び要時に出張診察に行きます。
- (訪問診療) 具合が悪い、地理的な都合等の理由で通院が困難な患者さんには家に訪問して診療します。
- (勉強会) 院内スタッフ向けに講義をすることもあります。

両津

- (風景) 両津病院からは両津湾、大佐渡（佐渡の北側の半分）内のドンデン山のほかに近くにある加茂湖が見えます。佐渡の伝統である鬼太鼓（おんでこ）は様々なところで見ることが出来ます。
- (外来) 相川病院と同様に、両津病院でも慢性疾患の患者さんを中心とした外来勤務日に出ています。患者数は大変多いです。
- (検討会) 問題になる症例について、他医師と検討する検討会が週1回開かれます。川村医師（23期）もいます。
- (巡回診療) 海岸など遠い集落には定期的に巡回診療（出張外来）を行います。看護師、事務職員等最小限のメンバーと車で約1時間かけて移動し、公民館（とは言っても古い小屋でしかないですが）を借りて出張外来を開きます。集落ごとに行き、少数ですがその集落の患者さんが集まってきます。処方、会計もその場で行ないます。車が入れないところもあり、薬剤、カルテ等道具は全部自分たちで運びます。この時は両津内でもかなり遠く、相川との境界にある北鶴島（きたうしま）、真更川（まさらがわ）という集落に行きました。その途中に観光地である大野亀（おおのがめ）がありカンゾウの花が咲いています。

（※大野亀とは標高167mの1枚岸壁で、大きな亀の頭のように見える巨岩。頂上まで徒歩20分程かかるが外海府の全貌が眺められる。亀はこの周辺では神のことで、神が宿る岩として信仰された。6月上～中旬にかけてキバナカンゾウが咲き、毎年6月第2日曜に行なわれるカンゾウ祭りでは鬼太鼓（おんでこ）等の郷土芸能が披露される。）